

〈概要〉平成19年度公共用水域等の水質測定結果について

1. 平成19年度公共用水域水質測定結果について

水質汚濁に係る環境基準のうち、カドミウム、水銀、PCBなど人の健康の保護に関する環境基準は、全ての測定地点で達成していました。

生活環境の保全に係る基準は、有機物による汚濁の指標であるBOD（河川）及びCOD（湖沼、海域）の環境基準達成率は類型指定（目標を設定した）水域について、河川は90%、湖沼は100%、海域は80%、全体では88%でした。

富栄養化の指標である全窒素・全リンについては、閉鎖性水域として浦ノ内湾と浦戸湾を、また、全リンについては早明浦ダム湖を類型指定しています。浦戸湾で全窒素の環境基準及び全リンの暫定基準を超過しました。

環境基準の達成率はほぼ横ばい状態で、市街地の河川や閉鎖性海域の水質の改善が必要です。

2. 平成19年度地下水質測定結果について

概況調査では、調査した31井戸のうち、南国市の1井戸で六価クロムが環境基準を超過していました。また、汚染井戸周辺調査では、高知市の1井戸でシス-1,2-ジクロロエチレン、トリクロロエチレン及びテトラクロロエチレンが、南国市の205井戸のうち、28井戸で六価クロムが環境基準を超過していました。

定期モニタリング調査では、調査した18井戸のうち、テトラクロロエチレンが室戸市の1井戸で、また、南国市の1井戸で硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素が環境基準を超過していました。